

始まりは中学・高校生が制作

さっぽろ雪まつり

札幌の冬の最大のイベント「さっぽろ雪まつり」のルーツをたどってみました。

「さっぽろ雪まつり」は、昭和二十五年に誕生しました。当時の札幌は、まだ戦後の物不足の時期を脱していないところで、社会全体に暗いムードが漂っていました。そんな中、厳しい冬の生活を楽しむことはできないかと、いろいろな行事の案が出されました。雪まつりのヒントとなったのは、小学生が校庭の雪を固めてさまざまな像を作っていたことだそうです。

第一回の雪まつりは、雪像をいかに作るかが大きな問題でした。雪だるま程度のものであれば作ることが可能ですが、市民の鑑賞に耐える像をどうやって作るか、制作を依頼された中学校、高校の指導の先生は大いに悩みました。悪戦苦闘の末、会場の大通西七丁目には中学校二校、高校三校の作品が六点が並びました。

現在のような大雪像が作られたのは、第四回の伏見高校（今の札幌工業高校）が作った「昇天」が最初で、高さは十五層もありました。それまでは三層から六層くらいの小規模な雪像だけだったので、市民は目を見張りました。また、自衛隊が本格的に参加したのは昭和三十一年の第七回で、「至誠」という大雪像を作りました。これを機に雪像は大型化の傾向を見せ、だんだん今の雪まつりの様子に近づいてきました。

（平成七年一月号・第十八回）



注目を集めた「昇天」
（札幌市教育委員会文化資料室所蔵）